

**2011年第3四半期の純損失は41億ドルと公表
税引き後営業損失は30億ドル
AIAおよび金融受け皿会社(Maiden Lane III)の時価評価損、
異常災害損失、航空機の減損を含む**

2011年11月3日(ニューヨーク発): AIGは、2011年第3四半期のAIGに帰属する純損失が41億ドル、税引き後営業損失が30億ドルになったと公表しました。これに対して、2010年第3四半期は純損失が25億ドル、税引き後営業損失は1.14億ドルでした。

2011年第3四半期の1株当たり損失は2.16ドルとなり、これに対して2010年第3四半期は、1株当たり希薄化後損失が18.53ドルでした。2011年第3四半期の1株当たり税引き後営業損失は1.60ドルとなり、これに対して2010年第3四半期は0.84ドルの損失でした。

第3四半期の業績には、株式市場の低迷、クレジットスプレッドの拡大、金利低下などいくつかのマクロ経済要因がマイナスの影響を及ぼしました。株式市場の低迷により、AIAグループ・リミテッド(AIA)普通株式のAIGの持分に23億ドルの評価損が生じました。クレジットスプレッドの拡大、金利低下、将来の見積キャッシュフローのタイミングの変化によって、金融受け皿会社(Maiden Lane III LLC、以下「ML III」)におけるAIGの持分の公正価値が9.31億ドル、金融受け皿会社(Maiden Lane II LLC、以下「ML II」)におけるサンアメリカの持分の公正価値が4,300万ドル下落しました。さらに、第3四半期に明らかになった経済面や、技術面、特定の取引先に関する問題等から、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション(ILFC)の特定の航空機に関する評価を変更し、これにより約15億ドルの非現金の引当金を計上しました。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは以下のように述べました。「AIGは引き続き、厳しい世界経済情勢の中を進んでおり、第3四半期の業績は、株式市場の低迷、クレジットスプレッドの拡大、金利低下、さらに異常災害損失によりマイナスの影響を受けました。またILFCでは相当量の減損処理を行いました。これは、経営陣が航空機業界の技術進化の動向を踏まえ、特定の航空機について以前見積もっていた使用期間の終了を待たず処分を決定したこと、一部の航空会社が機体管理計画を発表したこと、さらに新たに取得したパートアウト会社を反映しています。」

「外部環境が厳しいにもかかわらず、中核の保険事業における進展とその強固な基盤が私達の支えとなっています。AIG全体でセールスに力強い勢いがあります。従業員は、お客様の信頼できるパートナーとして働き、一貫して質の高い保険、運用商品、サービスを提供して本当の価値をもたらしています。」

第3四半期の重要事項

- チャーティス・インク(チャーティス)の2011年第3四半期の業績には、ハリケーン「アイリーン」による3.72億ドルを含め、5.74億ドルの異常災害損失が反映されています。これに対して2010年第3四半期の異常災害損失は、7,200万ドルでした。チャーティスは良好な料率トレンドによって恩恵を受けましたが、引き続き、ポートフォリオの質と全体の資本効率を向上させるため戦略的措置を実施しました。
- サンアメリカの2011年第3四半期の営業利益は、前年同期が10億ドルであったのに対して、4.44億ドルとなりました。当四半期の業績は、サンアメリカの金融受け皿会社(ML II)における持分の公正価値の減少、直接投資における損失、株価下落による変額年金の利益の減少などを要因とする、正味投資利益の減少による影響を受けました。
- AIGの航空機リース子会社であるILFCは、旧世代の燃費が悪い機体について、15億ドルの減損損失を計上しました

- 現在、AIG のその他の事業には、以前は金融サービス事業部門に含まれていた非航空機リース事業が含まれ、2011 年第 3 四半期の営業損失は、前年同期が 11 億ドルであったのに対し、42 億ドルとなりました。これは、AIG が保有する AIA 普通株式および ML III 持分の公正価値が、2011 年 6 月 30 日と比べそれぞれ 23 億ドル、9.31 億ドル減少したことを反映しています。
- 2011 年第 3 四半期に AIG は、南山人壽保険（ナンシャン）の 22 億ドルでの売却に伴う収入を充てることで、米国財務省が保有するエー・アイ・エー・オーロラ・エルエルシー（AIA SPV）の優先的分配権の残額を約 93 億ドルまで減少させました。11 月には、AIG は追加で約 9.72 億ドルの支払いを行っています。この返済資金は主に、アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー（ALICO）の売却に関連して開設されたエスクロー勘定の解約に伴う資金によるものです。
- 2011 年 9 月 30 日現在の AIG の株主資本は 860 億ドルで、1 株当たり帳簿価額は 45.30 ドルとなりました。

税引き後営業利益（損失）の要約
(単位：百万米ドル)

	9 月 30 日までの 3 ヶ月		9 月 30 日までの 9 ヶ月	
	2011 年	2010 年	2011 年	2010 年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益 (損失)：				
チャーティス	\$ 442	\$ 1,072	\$ 768	\$ 2,906
サンアメリカ・ファイナンシャル・ グループ	444	1,028	2,330	3,005
小計 - 継続事業に属する保険事業	886	2,100	3,098	5,911
航空機リース	(1,317)	(218)	(1,114)	(92)
その他の事業：				
モーゲージ・ギャランティ	(96)	(124)	(70)	175
第三者に対する負債の利息	(498)	(580)	(1,545)	(1,830)
金融受け皿会社 (Maiden Lane III)	(931)	301	(854)	1,410
直接投資	119	54	631	1,027
グローバル・キャピタル・マーケッツ	(174)	149	(57)	(83)
その他の全社費用および消去	(558)	(70)	(555)	(924)
小計 - 継続事業	(2,569)	1,612	(466)	5,594
AIA ならびにメットライフの公正価値利益	(2,315)	-	111	-
NY 連銀および米国財務省への支払利息、 優先持分からの利益	-	(120)	272	(526)
その他非支配的持分	(164)	(473)	(576)	(1,660)
法人税 (経費) / ベネフィット	2,010	(1,133)	927	(2,092)
AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失)	\$ (3,038)	\$ (114)	\$ 268	\$ 1,316

事業分野別詳細

チャーティス

チャーティスは、グローバル・ディストリビューションチームと4つの主要地域によってサポートされる、コマーシャル・インシュアランスおよびコンシューマーインシュアランスの2つの事業部門への再編をほぼ完了させました。2011年第3四半期は、チャーティスがこの新たな運営体制に基づいて決算報告を行う最初の四半期となります。

チャーティスの2011年第3四半期の営業利益は、前年同期が11億ドルであったのに対して4.42億ドルとなりました。2011年第3四半期業績には、前年同期の7,200万ドルに対し、異常災害損失が5.74億ドルとなったことが含まれています。この内訳は、ハリケーン「アイリーン」関連が3.72億ドル、熱帯低気圧「リー」が8,000万ドル、台風12号および15号が7,900万ドルなどです。異常災害損失は、税引き後ベースで、チャーティスの2011年第3四半期株主資本の0.8%に相当します。

2011年第3四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が99.3であったのに対し、106.4となりました。2011年保険事故年度のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと、前年同期が96.3であったのに対し99.2となりました。2011年第3四半期の業績には、前年の支払準備金による正味でのマイナスの影響6,200万ドル（発行差金償却700万ドルなど）が含まれています。これはチャーティスが第3四半期に保有する準備金710億ドルの0.09%に相当します。

2011年第3四半期の正味収入保険料は、為替の影響による4.2%の増加を含めると、前年同期比で0.7%増加しましたが、現地通貨建てでは3.5%減少しました。チャーティスは引き続き、事業構成を改善し、資本効率を高めるために、損害保険の遡及料率法や支払保険金の損金算入といった損失に敏感なプログラムの再編などの戦略的措置を実施しています。戦略的措置による保険料減少の一部相殺は、特に米国のコマーシャルインシュアランス事業において、料率の良好なトレンドとして続けました。

チャーティスは、2011年第3四半期に7.75億ドル、2011年第1～3四半期には9.05億ドルの現金配当をAIGに支払いました。

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカの2011年第3四半期の営業利益は、前年同期が10億ドルであったのに対して、4.44億ドルとなりました。2011年第3四半期業績は、サンアメリカが保有するML IIの公正価値が4,300万ドル低下し、正味投資利益が前年同期の1.56億ドルから減少したこと、またリースされている商用機を保有する信託への直接投資に関連する9,700万ドルの損失、パートナーシップ利益の減少による影響を受けました。2011年第3四半期の変額年金の業績も、保険契約者給付費用の増加、株価低迷を要因とする新契約費用繰延額の償却の増加により、マイナスの影響を受けました。

2011年9月30日現在の運用資産は、前年同期の2,446億ドルから2%増加して、2,506億ドルとなりました。未実現評価益は、2011年6月30日現在が46億ドルであったのに対して、合計49億ドルでした。

収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の44億ドルから29%増の計57億ドルとなりました。これは、グループ・リタイアメント商品、個人向け定額年金および変額年金が、いずれも大幅に増加したことによるものです。グループ・リタイアメント商品は、主に個人繰越し預かり資産の増加により、前年同期比25%増加しました。定額年金預かり資産は前年同期比49%増加しました。一部の銀行と、手数料引き下げと引き換えに、貸出金利を引き上げる交渉を行ったことによって、保険契約者にとってサンアメリカの商品の魅力がより高まっています。変額年金預かり資産は、連続して減少しました。これは、低金利下でサンアメリカが規律を維持したためです。第3四半期に個人向け変額年金預かり資産は、前年同期比で44%増加して、合計8億ドルとなりました。これは競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー／ディーラー事業体による昨年の販売回復、およびホールセール事業体の生産性向上によるものです。ネット・フローは、3四半期連続でプラスとなりました。個人向け生命保険の販売は、2010年第3四半期から15%増加しました。これは、商品の拡充とともに、独立代理店との関係を修復させるための努力が実を結んでいるためです。

2011年第3四半期および第1～3四半期に、サンアメリカは、配当金およそ8.28億ドル（サープラス・ノートに関わるSAFGへの4,000万ドルの金利支払い）とサープラス・ノート金利17億ドル（サープラス・ノートに関わるSAFGへの1.38億ドルの金利支払い）を、それぞれ親会社に支払いました。このうち、5.22億ドル、11億ドルはそれぞれ、関係会社貸付金の返済を通じて、AIG親会社に流動性を提供するために用いられました。

航空機リース事業

ILFCは、前年同期が2.18億ドルの営業損失を計上したのに対し、2011年第3四半期は13億ドルの営業損失を計上しました。当四半期業績は、ILFCの年1回の機体のレビューの結果生じた15億ドルの減損費用により、マイナスの影響を受けました。このレビューでは、次のような2011年第3四半期に見られた動きについて検討しました。新技術を採用した航空機が、中間世代の航空機の現在ならびに将来の需要に与える影響が強まっていること、燃料価格の大幅な変動や高い平均燃料価格による影響、メーカーがより燃費効率の高い新世代機の生産比率を高く維持していること、低インフレが航空機の価値に及ぼすマイナスの影響、旧型の中間世代で製造中止となった航空機の販売に関する現在の市場の状況ならびに将来の業界見通し、旧世代航空機のオペレーターや借り手の数が減っていること等です。

2011年第3四半期に、ILFCはリース料収入11億ドルを計上しましたが、前年と比べてほぼ横ばいでした。2011年第3四半期のILFCの平均保有機体数は、前年同期が943機であったのに対して、934機でした。2011年にILFCはエアバスと、A320neoファミリーのナローボディ機100機の購入契約を結びました。この納入は2015年からとなります。ILFCはまた、A320neoファミリーのナローボディ機を追加で50機購入する権利も持っています。さらにILFCは、ボーイング社との間で737-800、33機の購入契約を結びました。この納入は2012年からです。

10月にILFCは、以前に発表していたアエロタービン・インク（アエロタービン）の取得を完了しました。同社は、認定された航空機向けエンジン、部品、サプライ・チェーン・ソリューションに関する航空機業界有数のサプライヤーです。アエロタービンの取得により、ILFCは航空機のライフサイクル全体を通じて価値の最大化を図ることができます。

その他の事業

現在AIGのその他の事業には、以前は金融サービス事業に含まれていた非航空機リース事業の業績が含まれています。

その他の事業の営業損失は、前年同期が11億ドルであったのに対して、2011年第3四半期には42億ドルを計上しました。2010年第3四半期の損失には、ニューヨーク連邦準備銀行（NY連銀）のクレジット融資枠の支払利息13億ドルが含まれていましたが、2011年第1四半期に全額返済しました。当四半期のその他の本部経費は、前年同期が2.15億ドルであったのに対して、合計3.35億ドルとなりました。当四半期の費用には、AIGおよびその事業全体でのインフラ統合に関連する費用、法的偶発事象に対する準備金の増加が含まれています。

モーゲージ・ギャランティは、前年同期の1.24億ドルに対して、2011年第3四半期には9,600万ドルの営業損失を計上しました。当四半期の業績は、引き続き住宅市場の低迷が続いていることから不利な影響を受けており、不利な判決による2,200万ドルの損失が含まれます。正味収入保険料は、前年同期比8.4%増加して2.06億ドルとなりました。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受けは、2011年第3四半期が56億ドル、第1～3四半期が113億ドルとなりました。高い質を保ち、新規契約の平均FICOスコアは757、平均借入金比率は91%でした。

AIGのダイレクト・インベストメント事業（DIB）は、マッチド・インベストメント・プログラム（MIP）、および以前はAIGファイナンシャル・プロダクツ・コーポレーション（AIGFP）のポートフォリオに含まれていた非デリバティブ資産および負債で構成されており、第3四半期の営業利益は、前年同期が5,400万ドルであったのに対して1.19億ドル（正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）前）となりました。この増加の主な要因となったのは、公正価値オプションによるDIBの資産・負債に対するクレジット・バリュエーションの調整です。9月にAIGは、2014年満期、利率4.250%のノートを12億ドル、2016年満期、利率4.875%のノートを8億ドル発行しました。この収入は、AIGがMIPの資金調達のために発行したノートの満期償

還の支払いに充当される見通しです。

グローバル・キャピタル・マーケットは、AIG マーケッツ・インクと残りの AIGFP デリバティブ・ポートフォリオで構成され、第3四半期の営業損益は、前年同期の1.49億ドルの営業利益に対して、1.74億ドルの営業損失を計上しました。この損失の主な要因となったのは、AIGFP スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオの未実現評価益の減少です。2011年第3四半期に、AIGFP デリバティブ・ポートフォリオに残っている正味名目元本は80億ドル減少しました。これにはスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップの減少30億ドルが含まれます。

2011年9月30日の香港証券取引所終値に基づくと、第3四半期にAIA 普通株式の公正価値は2011年6月30日から23億ドル減少しました。また当四半期中、AIGは、南山人壽保險（ナンシャン）の売却収入22億ドルにより、米財務省が保有するAIA SPVの優先持分の優先的分配権を減少させました。11月には、ALICOの売却によるメットライフのエスクロー契約に従い、9.18億ドルがAIGに放出され、さらにAIA SPAの優先的分配権の一部返済に充てられました。

金融受け皿会社（ML III）におけるAIGの持分の公正価値は、前年同期に3.01億ドル増加したのに対して、2011年第3四半期には9.31億ドル減少しました。これは、当四半期に米国の住宅関連資産のクレジットスプレッドが大幅に拡大したこと、金利が下がったこと、将来の見積キャッシュフローのタイミングが変わったことによります。

カンファレンス・コール

AIGは、明日2011年11月4日午前8時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向けセクションでご覧いただけます。

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、決算補足資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。米国財務省（「財務省」）が保有するAIG株式の売却時期、財務省が保有するAIAオーロラの優先持分の返済の時期および方法、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対するAIGのエクスポージャー、AIGのリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、AIGによる配置可能な資本の創出、AIGの株主資本利益率および1株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関するAIGの戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関するAIGの戦略、そしてAIG子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIGの実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIGの実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常損害の発生、重要な法的手続き、地方債ポートフォリオなどAIGの投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、ILFCの機体の復元可能性に関する判断、および2011年6月30日末のAIGのフォーム10-Qによる四半期報告書の、パートI項目2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」）、2011年3月31日末のAIGのフォーム10-Qによる四半期報告書のパートII項目1A（「リスク要因」）、2010年12月31日末のAIGのフォーム10-Kによる年次報告書の、パートII項目7（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」）およびパートI項目1Aなどで取り上げられている事項などがあります。AIGは、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIGについて

AIGグループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130以上の国・地域でサービスを提供しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社AIG, Inc.の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2011 年第 3 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、収入、純利益、営業利益および関連する業績指標は、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、事業売却の結果、非継続事業、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、シリーズ C、E、F 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）からサンアメリカの DAC による相殺を除いたもの、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の影響、のれん代減損の影響、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、異常災害関連損失および前年の損害動向の影響、アスベスト関連の損失、前年の動向に関連する返還または追加保険料、外国為替レート、繰延税金評価引当金または信用、航空機の減損、富士火災のパーゲン・パーチェス・ゲインを除外して示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、これによって、財務諸表を利用される投資家の方々にとって最も意味がある方法で、財務情報を表示、検討できるものと考えています。事業利益（損失）、は、チャーティスの業績を報告するために用いています。営業利益（損失）は、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、関連 DAC および販売促進資産の償却、のれん代減損費用の調整前のもので、サンアメリカの業績を報告するために用いています。非継続事業の業績および、子会社売却の純利益（損失）は、これらの数値に含まれていません。AIG は、これらの数値によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。これらの数値を開示する場合、GAAP 型税引き前利益の調整を示します。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険 CPPE 売上高）には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

AIG は、重要な子会社売却や事業再編に関連する活動を踏まえて、2010 年第 4 四半期に税引き後営業利益（損失）の定義を見直しました（以前の修正純利益）。財務諸表を利用される方々にとって最も意味のある形で財務情報を表示、検討するために、定義を見直しました。AIG の税引き後営業利益（損失）の定義は、非継続事業の会計処理を行う要件を満たしていない事業売却による利益（損失）、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、事業売却関連の活動から生じたのれん代減損費用、サンアメリカの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する繰延保険獲得費用（DAC）による相殺、そして繰延税金評価引当金の費用および減算を除くよう修正されました。

2008 年から AIG に影響を及ぼしてきたきわめて異常な出来事による歪んだ影響がなければ、AIG は、税引き後営業利益（損失）の修正により、継続事業の業績とその事業の基本的な収益性を浮き彫りにすることで、事業の営業成績をより正しく評価し、より良く把握できると考えています。さらに、DAC による相殺の調整は、生命保険業界の非 GAAP 型の財務数値では一般的な調整であり、AIG がサンアメリカの営業成績をどう評価しているかを示す指標として優れています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2011年	2010年	増減(%)	2011年	2010年	増減(%)
チャーティスの事業：						
正味収入保険料	\$ 8,659	\$ 8,598	0.7 %	\$ 26,992	\$ 24,034	12.3 %
正味既経過保険料	9,043	8,597	5.2	26,727	23,971	11.5
請求および請求調整費用	6,838	6,109	11.9	21,274	17,143	24.1
引受経費	2,787	2,423	15.0	8,030	7,113	12.9
事業利益 (損失)	(582)	65	-	(2,577)	(285)	(804.2)
正味投資利益	1,024	1,007	1.7	3,345	3,191	4.8
営業利益	442	1,072	(58.8)	768	2,906	(73.6)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	57	(207)	-	143	(12)	-
その他の利益 (損失)	(1)	-	-	(1)	332	-
税引き前利益 (損失)	498	865	(42.4)	910	3,226	(71.8)
損害率	75.6	71.1		79.6	71.5	
経費率	30.8	28.2		30.0	29.7	
コンバインド・レシオ	106.4	99.3		109.6	101.2	
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：						
収入保険料の売上	591	595	(0.7)	1,874	1,920	(2.4)
保険証券発行手数料	658	673	(2.2)	2,024	1,978	2.3
正味投資利益	2,295	2,656	(13.6)	7,510	7,991	(6.0)
収入合計	3,544	3,924	(9.7)	11,408	11,889	(4.0)
給付および費用	3,100	2,896	7.0	9,078	8,884	2.2
営業利益	444	1,028	(56.8)	2,330	3,005	(22.5)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA の給付 (償却)	(173)	(50)	(246.0)	(215)	150	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	38	20	90.0	(91)	(1,742)	94.8
税引き前利益	309	998	(69.0)	2,024	1,413	43.2
航空機リース事業：						
収入	1,129	1,186	(4.8)	3,419	3,609	(5.3)
費用	2,446	1,404	74.2	4,533	3,701	22.5
営業損失	(1,317)	(218)	-	(1,114)	(92)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(12)	4	-	(8)	(30)	-
税引き前損失	(1,329)	(214)	-	(1,122)	(122)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ロス・調整前	(4,242)	(1,095)	-	(5,692)	(1,210)	(370.4)
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	299	(473)	-	(161)	89	-
会社間連結・消去調整 (a)	107	225	(52.4)	109	52	109.6
継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益 (損失)	(4,358)	306	-	(3,932)	3,448	-
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	(634)	486	-	(1,122)	1,044	-
継続事業の純利益 (損失)	(3,724)	(180)	-	(2,810)	2,404	-
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	(221)	(1,833)	87.9	1,395	(4,101)	-
純損失	(3,945)	(2,013)	-	(1,415)	(1,697)	16.6
控除：						
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：						
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	145	388	(62.6)	538	1,415	(62.0)
その他	19	104	(81.7)	28	243	(88.5)
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	164	492	(66.7)	566	1,658	(65.9)
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	-	12	-	19	35	(45.7)
非支配的持分に帰属する純利益	164	504	(67.5)	585	1,693	(65.4)
AIG に帰属する純損失	(4,109)	(2,517)	-	(2,000)	(3,390)	-
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ (4,109)	\$ (2,517)	- %	\$ (2,812)	\$ (686)	- %

財務ハイライト (続き)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2011年	2010年	増減(%)	2011年	2010年	増減(%)
AIGに帰属する純損失	\$ (4,109)	\$ (2,517)	%	\$ (2,000)	(3,390)	%
AIGに帰属する税引き後営業利益(損失)の調整 (税引き後)						
AIGに帰属する非継続事業の利益(損失)	(221)	(1,845)	88.0	1,376	(4,136)	-
事業売却の純収益(損失)	(1)	4	-	(49)	21	-
事業売却の純利益	-	447	-	16	1,398	(98.9)
繰延税金資産評価引当金(費用) / 減算	(1,177)	140	-	(1,170)	385	-
NY連銀前払委託手数料資産償却	-	(779)	-	(2,358)	(1,547)	(52.4)
正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)	253	(461)	-	(90)	(1,177)	92.4
正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する サンアメリカのDACによる相殺	(112)	(33)	(239.4)	(139)	97	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益(損 失)、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)を除く	187	124	50.8	146	(79)	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	-	-	-	332	-
AIGに帰属する税引き後営業利益(損失)	\$ (3,038)	\$ (114)	(2,564.9)	\$ 268	\$ 1,316	(79.6)
普通株式1株当たり利益(損失) - 希薄化後:						
AIG普通株主に帰属する純損失	\$ (2.16)	\$ (18.53)	-	\$ (1.59)	\$ (5.05)	-
AIG普通株主に帰属する税引き後営業利益(損失)	\$ (1.60)	\$ (0.84)	- %	\$ 0.15	\$ 1.96	(92.3)
AIG株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (b)				\$ 45.30	\$ 598.22	(92.4)
2010年のAIG株主資本の見積普通株式1株当たり 帳簿価額(c)				\$ N/A	\$ 48.24	-

財務ハイライト特記事項

* 規定Gに従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益(損失)を含んでいます。
- AIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 2010年に起こったものとして、資本再構成化を実施して算出した見積普通株式1株当たり帳簿価額を示します。